

そよかぜだより

第68号
発行 2008.1.20
毎月1回発行
NPO法人
障害者団体連絡会
そよかぜ

http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
(お問い合わせ)
資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

2008年、年頭にあたって、新年のご挨拶

特定非営利活動法人障害者団体連絡会

そよかぜ 理事長 野崎 功市

○新年明けましておめでとう
ございます。みなさまには輝
かしい新春を迎えられたこと
と心からお喜び申し上げます。

ります企業、団体、市民みな
さまのご支援、ご協力の賜物
であり、心から感謝を申し上
げる次第です。

今年も、そよかぜの事業運
営に対しまして変わらぬご指
導、ご協力を賜りますようよ
ろしくお願いいたします。

さて、今年も、そよかぜが

あけまして おめでとうございます

本年もよろしく
お願い申し上げます

おかげさまで昨年は、そよ
かぜが運営します、ひばり園、
あおぞら両福祉作業所が従来
からのベアリング組み立てに
加え、一部ではありますが、
携帯電話加工や袋詰め作業な
どの新しい分野の導入が図ら
れ、リサイクルショップくれ
よんやグループホームほほえ
み館、また宿泊訓練施設つく
しの家など各種事業も順調に
推移することができました。

この法人
化並びに新施設整備計画は、
障害者自立支援法を受けて、
社会的信用の確保、事業の継
続性、補助金の法的保証、相
談事業の充実、安定的事業の
運営など、今後のそよかぜの
発展、拡充に欠かすことがで
きないものであります。これ
らの事業計画の推進に、市当
局のご理解とご指導をいただ
きながら、現在、国に対して
東京都を通じ、法人化並びに

ご協力ありがとうございました。 12月の募金 59,637円
(順不同) 19年4月～19年12月の合計 392,799円

村上 武司	様	居酒屋たんぼぼ	様	内田 洋子	様
大山 博子	様	小谷野美智子	様	藤野 和子	様
本田 英夫	様	高橋 典子	様	田中 明子	様
帯刀 進	様	中原 幸政	様	北野 浩美	様
鈴木 勝	様	加部 妙子	様	清水 賢	様
佐藤 佐夫	様	大野 元雄	様	清水 知子	様
エイ・アイ	様	森田 勝	様	村野 理子	様
川村 洋子	様	宇津木 牧夫	様	竹内 照夫	様
若松 時義	様	込宮 正夫	様	野崎 敬雄	様
山下 暉枝	様	石堂 孝一	様	田村 由親子	様
濱野 岬	様	古沢 奈保美	様	関谷 博	様
下田 コウ	様	大内 たま子	様	天満 喜代子	様
山崎 六雄	様	平岡 知子	様	橋本 亜紀子	様
土屋 三枝子	様	川崎 利男	様	小沢 達子	様
榎本 正代	様	清水 キヨ子	様	長谷川キヌ子	様
松岡 竹子	様	尾又 恭子	様	関谷 孝子	様
角野 克子	様	角野 進	様	山影 幸子	様
阿部 郁子	様	斉藤 忠	様	平野 嘉子	様
渡辺 四郎	様	関村 理	様	桜沢 喜作	様
田中 稔	様	関村 英希	様	パーソナルカワノ	様
吉野 満里子	様	永岡 智恵子	様	大野 素子	様
国本 昭治	様	中根 雪江	様	アバンバンデックス	様
袴田 実	様	本間 正彦	様	匿名様(5,508円)	

施設整備に関する協議を進め
ているところであります。今
後の予定では、今年の夏ごろ
に法人化及び施設整備計画協
議書の採択の可否が決定され
ることになります。これら
の事業内容や進捗状況につ
きましては、そよかぜだよりや
(2面へつづく)

NPO法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

この収益は「つくしの家」の運営資金などになります。
12月は32,270tでした。金額は605,623円となりました。
みなさまのご協力ありがとうございました。

2月は第3日曜日17日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855

くれよん12月の売上げ
932,620円でした。

羽村市内の小学校と中学
校の生徒のみなさんが、
各学校単位でプルトップ
収集にご協力して下さっ
ています。ありがとうございます。

(1面からのつづき)

会員だよりを通じて、その都度お知らせをし、ご理解をいただきたいと考えております。

いずれにしても、増大する障害者の就労ニーズ等に対応した就労継続支援(授産事業) また一般就労移行支援事業など幅広い障害者福祉の充実を図らなければならぬものと考えております。

どうか、本年も関係者皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます

平成20年1月吉日

障害者重点施策が決定

11年度までに工賃倍増
政府は12月25日新たな重点施策5カ年計画を決め、力を入れる施策と数値目標、達成期間を定めました。

11年度までに施設入所者を1万1千人減らす(05年度は14万6千人)。授産施設(無認可作業所は含まず)などの平均工賃が06年度は月額1万2222円だったが、これを11年度までに倍増させる、などです。

いつものようなお正月の1コマです

障害児を抱えた親のくりごと

○今年のお正月休みに、いつものように施設から息子が帰ってきて一週間ばかり二人で過ごしました。三が日のある日、時間つぶしも兼ねて大きなスーパーへ買い物に行きました。車椅子を押しながら書店の前を通りかかった時、通路きわに幼児用の絵本が並べられていました。その中に、表紙にウルトラマンの絵がある絵本があつて息子の目に留まりました。私は「しまった」と思いましたがすでに遅く、

息子は「あー」といいながらそれを手に取りました。息子は今年、四十歳になります。子供の頃テレビで見たウルトラマンが今でも大好きで、家には同じような絵本が山のようになり積み重ねてあります。「だめ、手を離さない」と私はきびしくいって絵本を取り上げようとしたが、息子も必死で抵抗します。さらに叱っていると、女性店員が近づいてきました。息子の姿を見てすぐに状況を察した

らしく「いいですよ、それは差し上げます。どうぞお持ちください」といいました。

「いえ、ではお金を払います」というと店員は「その本はもう古くて売れそうもないから、私からのお正月のプレゼントです」といって息子の手に本を渡してくれました。断るのには、せつかくのご親切を無にするような気がしたので、その本はいただいて、別の文庫本を買って帰ってきました。家に帰って息子はさつそく絵本をめくりまわります。これを見ている間はしばらくおとなしくしているのですが、私もその横で文庫本をめくっていると次のような一文が目に入ってきました。

手向くるやむしりたがりし

赤い花 (小林一茶)

「この句は、現代人には理解できないものとなっている。一茶がとてかわいがっていた、幼い女の子が病気で死ん

でしまったときに、悲しみを抑えてよんだものであるがそれが分かっていても意味が伝わらない。昔の人にとって花とは何だったのだろうか。緑の茎や枝の先端などに、いきなり赤い花や青い花が咲く。

あの赤い色や青い色は、今までどこに隠れていたのだろうか。考えてみれば「奇跡」の世界に潜在しているものがこの世に顔を出した『聖なるもの』と考えた。感動と畏れに充ちたものだった。江戸時代まではたとえ幼い子供であっても、花をむしることは止められていた。死んで『あの世』の存在となったときに初めて手向けてもらえるものだった。あんなにむしりたがっていた花だよ。今やつとお前に手向けてあげることができよ。と一茶が最愛の娘に話しかけている」

一茶が幼い子の手を引いて野辺を散歩していたとき、子が赤い花をほしがったのでしよう。一茶は「だめだめ、あれは仏様のものだよ」とたしなめたのでしよう。自然に対する畏怖畏敬の念が無くなっ

た現代人には、この感覚は理解できません。

さて私も、一茶を見習ってだめなものだめと、絵本を息子に与えなければよかつたなど少し反省しました。でもウルトラマンは『聖なるもの』ではないから良いことにするかと、自分でごまかしてしまいました。

ところで障害児の親というのは、自分が老年になればなるほど、子の行く末のことを考えるものです。四十歳ともなれば普通なら逆に親の面倒をみてくれる年頃ですが、最重度の障害者には無理な相談です。そこでお正月がくるたびに、ああまた一年たったのかと思いつつ、これをいつまで続けていられるのだろうとつい考えてしまいます。いわゆる親なき後の問題は永遠の課題で、いくら考えてみてもこれなら安心という良い方法が見つかるわけではありませぬ。おそらく今後、社会がどのように変わり、福祉がどれほど進歩しても親が安心できるような解決法は出てこないでしょう。どうにもならないことで思い悩むのは損な

ことだし、私自身が楽天的な性格ですから、考えがこまにくると、もうその先は考えないことにしています。

しかし私は、絶対確実な解決法を一つ知っています。それは「障害児の親は子供より長生きをすること」という方法です。ただしこれは親が子供より先に行くという自然の法則に逆らいますから、簡単には実現できません。でも完璧な解決策はこれしかないのですから、私はこれをやりぬく決意をこの正月にしました。自分の目の黒いうちに行ってくればというマイナス思考ではなく、お前より長生きしてやるぞという前向き思考です。私が九十か百まで生きれば、この子は与えられた人生をまっとうできるはずですよ。

一茶は子に赤い花を手向けてくれたが、もしこの息子が私より先に死んだら何を手向けてやれるかなと考えました。赤い花などはこの子には何の意味もありません。だからといって「手向くるや、むしりたがりしウルトラマン」では句にならないあと、一人で笑ってしまいました。